

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自として、おあしすありたの名の下に理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット会議を月一回もうけ、その中で理念の再確認をしている。 又、玄関に掲げており、誰でも見れるようにしている。 穏やかで安心できる声掛けを日々行っている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレット、玄関に理念をわかりやすく掲示している。 運営推進会議や家族会等にて理念を伝えている。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	小学校、高校等教育機関に福祉を学ぶ時間を設け、その後気軽に立ち寄って触れ合える関係を築いている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	救マーク、子供110番等地域が安心して過ごせるような環境をつくっている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症キャラバンの講習に行ったり、救マーク、子供110番等取り組みをしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット会議にて全職員で自己評価に取り組んでいる。評価結果が出た時点で点検し、改善に取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、現状や今後の計画、サービスの内容や取り組み状況を報告している。出た意見を取り入れ、サービスの向上に活かしている		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近況報告など定期的に役所に行く機会を取り入れている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部の成年後見制度の研修に参加し、ユニット会議等で話し合う機会をつくっている。必要な家族には、情報提供をしている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部の虐待防止の研修に参加している。日常業務の中で虐待が起こらないよう職員同士でお互い声掛け合い意思向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には十分に話し合う時間を設けている。解約をする際も利用者又家族の立場にたって、最善になるよう話し合いを重ねて、納得をして頂いてから解約としている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者の表情をよく観察しており、本 人の意向を十分把握している。 何か気になることはないかと常に問い意見を 聞いている。意見が出たらすぐに改善できる ような取り組みをしている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	月一回の独自の便りを発行、送付し、写真や 手紙も渡している。 緊急時には電話にて状況報告を逐一行い、金 銭については毎月報告、確認の署名、押印等 もらっている		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を行い、意見を聞いたり、来訪時の声 掛け、意見箱の設置、包括支援センター等の 声掛けを行っている。第三相談窓口は明文化 し、契約時に説明している。 声が掛ければ即検討し処遇改善に努めている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	日々の業務の中で困ったことや意見等自然に 聞く態勢を取り入れている。 職員の意見を尊重し、決め事等行っている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	3人体制をとっているが行事や受診等その 時々に合わせて十分な配置をしている。 3ユニットにて急病時等ヘルプ体制をとり、 無理なく行っている。 夜間専門は入社時に十分利用者と信頼関係を 築いた上で夜勤に入れるようにしている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員と十分にコミュニケーションを とり、離職を防ぐ努力を行っている。 やむを得ない場合は影響を最小限抑える為、 引継ぎ機関を十分に設け対応している。 又、新人は慣れるまで他職員がフォローに 入っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用対象は性別、年齢等ではなく、介護に対する熱意等で判断している。 研修、資格取得の育成にも取り組んでいる。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する研修があれば出来るだけ参加するようにしている。 研修後報告を確実にやっている。 パート職員も、ユニット会議に参加してもらい一員として意見を必ず出して頂いている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が日常的に学べるよう研修情報を開示している。 経験に応じた研修や資格を取るよう機会を設けている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センター主催で区間6ヶ所のグループホームが集まり、勉強会を行った。 同業者ネットワークにも加入している。 他のグループホームの管理者とも交流を持ちお互いの相談も行っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員各々ストレスの解消は行っている。 相談等あった場合はゆっくりと時間をとってじっくりと話している。 休憩時はカーテンで仕切り、一息入れる時間も確保している。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	経験、実績に基づいてとった資格取得による報奨金制度導入も行っている。 1年に1回健康診断を行っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に不安がないよう、必ず本人に会って安心してもらっている。 必要であれば、何度でも会いに行き、又実際に見学してもらい、話を聞く機会を設けている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	どういう所が困っているか、どういう風に今後していきたいのか、又本人にとっても最善となるよう話し合う機会を取り入れている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時役所より「高齢者のあらまし」という配布のしおりを参照し、何が必要かを伝え、包括支援センターのしおりなど渡している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	何度も見学をして頂いたり、体験入居やショートステイをして頂き、家族と相談しながら馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理、掃除を共に行い、自分で出来ることはできるだけしてもらっている。 料理では、作り方、味付け等教えてもらう場面が日常的にあり、お互い日々学びあっている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報交換を密に行い、問題が生じた時に一緒に考えていくようにしている。 日々関係作りに努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事等に参加して頂き、楽しく過ごせる機会や、病院受診時は家族にして頂いている。面会時個室にてゆったりと会話して頂ける様配慮し、疎遠の方は逐一電話など情報を伝えている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に人間関係を細かく聞き取り、家族の方と病気のことを話すか、考えた上で会いに行かれたり、面会に来て頂いたりしている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	利用者同士の関係を把握した上で、食事のテーブルの配置を考えている。 職員が間をとりもっている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の病院へ入院や、施設に入所されても面会を継続的に行い、関係を断ち切らないようにしている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、一人一人ゆっくりと話をする時間を設け、希望や意向などの把握に努めている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に今まで暮らし、生活感等の把握を細かい情報を提供して頂いている。 利用者より知人の名前、場所などが出ると家族に確認をして頂いている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりのリズムを細かくチェックし、職員全員が把握している。 やってみる、やらせてみることで、できる力を引き出している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者、家族の意向、職員の意見を取り入れ作成している。 利用者だけでなく、家族の意見も取り込んでいる。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院後や、本人の状況に合わせ見直しを行っている。 又、評価も定期的に行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の経過記録に記入、それを基に3ヶ月、6ヶ月評価時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制の看護師と常に連携を取り合い 早めに医師へ報告、早期治療等で入院回避している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	教育機関に恵まれており中高校より、ボランティアをして頂いている。 消防も年2回の避難訓練時等必ず参加してもらい、補助及び助言を頂いている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	理美容のサービス、オムツサービス等利用している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に一回の運営推進会議にて、困難事例を取り上げたり、民生委員と共に協働している。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を家族より聞き、継続している。基本は家族が通院介助して頂くが、家族が出来ない場合、家族の往診希望等にて事業所の往診の医院に変更する場合も多い。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に理解のある医師が、往診に来て頂いている。又、脳神経外科との連携もはかっている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携看護師や、母体の整形外科の看護師、又往診して頂いている医院の看護師に24時間対応で相談にのって頂いている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には医師はもとより、担当看護師、ソーシャルワーカーと、何度も退院に向けた話し合いを家族と共に行っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期のあり方については、方針が事業所であり、健康な時から家族に説明を繰り返し返し、時期が来るとかかりつけ医と協働している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所の方針に出来ること、出来ないことも記されており、変化にいつでも対応できる様支援している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族と十分な話し合いをし、利用者が安心できるよう何度も声を掛け、見学など行い、次の施設に移り住む場合は本人の希望など代わって、代弁したり情報交換を密に行っている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ユニット会議等プライバシー確保について常々話し合っている。 記録に関しても、十分な配慮をし、必要な介護は各居室等で行っている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	今日何が食べたいかや、レクもどんな事がしたいか、常に希望をきき、希望に添った内容にしている		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、利用者がしたいことを、優先的に行っている。 遅くまでテレビを観る。 レクに参加せず休みたいなど。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容サービスにより行っているが、毛染めをしたり、ネックレス、髪止めなどのおしゃれを楽しんでいる。 乱れはその都度さりげなく直している。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が調理している為、寒いからうどんや鍋にしよう、暑いから冷やし中華したいなどの声をその場その場で取り入れている。 職員と一緒に食事している。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーやタバコ等、医師よりの制限が無い限り、希望時に支援している。 タバコは、気管支喘息の人が居たら声を掛け、ユニット外にて吸って頂いている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックリストでパターンを知り、そわそわしている等の表情で、誘導を行っている。 トイレは常に清潔を心がけている。 又、1年前と比べてオムツ使用量が、減少している方もいる。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回の入浴が基本だが、入りたくない人等その人の気分で行っている。 人により一時間以上入浴する方もおり、のんびりゆっくり入って頂けるよう支援している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない人には、出来るだけ昼間起きて頂く様声掛けを密にしたり、本人の負担にならないようリズムの修正をしている。 眠れない時は、温かいココア等でリラックスして頂いている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の出来ることを見出した上で、負担にならない役割をして頂いている。 食事の手伝い、洗濯物干し、たたみなど一人一人に合った支援をしている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金がないと不安な人等、なくしても支障のない額など、家族と相談しながら持たせている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に合わせ、散歩や買物、月1～2回のドライブ、外食など支援している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者が行きたい所は、住んでた家やお墓なので、家族に声を掛けをしながら、外出を多く取り入れて頂いている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の支援、電話の希望があればいつでも対応している。 しかし、電話の場合はリビングにある為配慮は難しい。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	居室が個室の為、面会時は椅子やお茶を準備し、ゆっくりくつろいで頂ける様工夫している。 面会時間は、定めているが電話を頂ければいつでも出来るような配慮している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束の研修に行き、報告を行い、職員が共有している。 身体拘束のマニュアル等も完備し、拘束のないケアに取り組んでいる。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室はもともと鍵がなく、ユニットの玄関は常に開錠している。 鈴をつけることにより、鍵をかけなくとも見守りをすばやく行え、ついて行ける様に工夫している。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングが全体を見渡せる為、リビングに職員が常時居よう職員間で声掛けを行っている。 キッチンでも食器棚、冷蔵庫、電子レンジ等電化製品の配置にも気をつけ角度がないよう工夫している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物は、なくしているが洗濯洗剤等は、そのままにしている。 監査では、排除するよう言われているが、どちらが正しいのだろうか。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故のマニュアルを作成、周知徹底している。 報告書も各ユニットに保存しており、事故後会議にて防止策を毎回検討している。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防局の応急手当普及員の資格を正社員全員取得している。 救マークも取得、24時間応急手当が出来る職員が配備されている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。 運営推進会議より、協力の呼びかけを行っている。非常袋を準備、非常食も完備している。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者によった個別のリスクを各家族に面会時や電話等で説明を定期的に話し合ったり逐一報告している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の顔色や行動を常に注意するよう職員が声を掛け合い、見落とさないように徹底している。 変化は逐一記録し、看護師より判断して頂いている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ノートを活用し、現在服用の薬、急に処方された薬にも、全スタッフが確認できるように対応している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員が食事を作っている為、繊維物を多くとったり、水分量のチェック腹部マッサージを行っている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、夕は必ず口腔ケアを行っている。 昼は嫌がる利用者が多い為、一人一人の希望に合わせている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量もチェックしており、利用者一人一人の嗜好や食事を把握している。 好き嫌いの多い利用者は同等のバランスが保てるよう工夫をこらしている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルが完備されており、定期的に外部の研修への参加、流行る時期には早々にユニット会議で周知徹底している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルを基に食中毒予防をとり行っている。 新鮮な食材管理の為、冷蔵庫にホワイトボードを掲げ在庫のチェックを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植えたり、子供110番のプレートを掲げたり、子供たちも安心して来て頂くよう工夫している。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやじゅうたん等家庭的雰囲気に配慮している。 時折、花を飾ったり、机と机の間を十分に取り、ゆったり出来るペースを確保している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が個室の為、独りになる空間は確保されている。 リビングのソファなどで気の合った利用者が一緒に過ごす事は多い。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みの家具や今まで使っていた布団、家族との写真等、安心して過ごせる、又その人らしい個性がある空間にしている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝掃除時は、必ず換気をするよう徹底し、利用者に合わせた、室温の調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はほとんどない状態であり、転倒につながる物はごく限られている。その為自由に動けるような配置にしている。 シルバーカーや杖など本人に合わせ取り入れている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	汚れなどは、早め早めに取り除き、トイレの場所などわかりやすくなっている。 各居室にも、顔写真等で自室がわかりやすい状態にしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで一緒に園芸をしたり、洗濯の手伝いをして頂けるスペースを確保している。 又、椅子やテーブルなどでも活用している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2／3くらいと ③家族の1／3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域住民との係わりが以前は少なかった為、少しでも「おあしすありた」を知ってもらうことを目的とし、又地域の方々に安心できると思って頂く様、福岡市消防局からの「救マーク」・有田小学校PTAの「子供110番」に登録を行った。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日々の介護における根本的な考え方に活かしやすい理念です。わかりやすい言葉で表示されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝理念の唱和をし、意識すると共にユニット会議での議論等、理念に基づいた考え方を取り入れて話し合い、統一ケアが出来る様に努めています。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会、運営推進会議等で説明しています。又見学者や面会時にも話の中でわかりやすく説明しています。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣の高校の体育祭を見学したり、ボランティアを積極的に受け入れ、また小中学校や保育園等から気軽に来ていただき交流を図っています。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームのチャリティーバザーの際、地域の方々に協力して頂きまた、清掃活動や草取りなどに参加しています。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	正社員は応急手当普及員の認定を受けており、救命講習終了スタッフ常駐施設として認定されています。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット会議の中でひとつひとつ改善に向けて話し合っています。また、常にユニット内に評価結果を掲示しており、指摘を受けた点については改善をはかっています。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話し合いをユニット会議で報告し職員で話し合いサービス向上に努めています。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の講習会等には職員の受講し易い態勢を取り、また研修生の受け入れも積極的に行っています。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修や講習会に積極的に参加し、必要な人には情報提供を行っています。ユニットには参考資料を置いてあり職員の周知徹底に努めています。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修にて学び、また虐待防止マニュアルを作成しています。ユニット会議等で職員への周知徹底に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	親身な態度で不安・疑問に耳を傾け、わかりやすい説明を行い、理解を得られるよう努めています。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会にて家族の意見を伺う時間を設けて おり、頂いたご意見には必ず対応策を検討 し、実現の可否とその理由を回答していま す。また意見箱を設置し情報収集につとめ ています。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	定期的にユニット便りを発行し、利用者の 様子などを知らせています。また健康状態 小遣いの使用状況等を面会時（電話にて） に報告させて頂いてます。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会と毎月の行事への参加を呼 びかけ、コミュニケーションの場を多く設 けています。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	ユニット会議で各職員が平等に意見を述べ ることができるようにしています。またア ンケート調査を行い、細めに職員間とのコ ミュニケーションを図っています。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	必要時には勤務調整を行っています。受診 や外出時には余裕のある人数の確保をして います。また、必要に応じて派遣会社の利 用もしています。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にとどめるよう努めて いる。やむを得ない場合は利用者へのフォ ローを行っています。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用選考に際しては、性別・年齢・思想・宗教など個人の人権にかかわる事項を判定材料とはしていませんし、あくまで本人の能力・経験・資格をもとに勤務させている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が研修に参加し、その内容を職員に説明している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市・県の講習情報を提示し、参加し易い様勤務態勢に配慮しています。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと連携をとり、他施設で実習を受けさせることにより実習生本人の知識と技術の向上を図ると共に、入居者にとってのよりよい介護に取り組んでいます。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	気になる職員には面談等、直接話を聞く機会を設けています。また食事会等を行い、ストレスの軽減に努めています。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回自己評価を行い、各自が目標を持ち楽しく働ける様努めています。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に顔なじみの関係を作り不安な事、困っていること等を本人から傾聴する機会を作る様に努めています。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まずは家族の話を十分に聞き、気持ちやニーズを受け止めることから始めます。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとって一番いい方法を見出すお手伝いが出来るよう心がけています。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状態を把握した上で本人の様子に合わせた方法を、家族とも相談し、生活歴等の情報を収集した上で、入居にいたっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や作業する場面では、長年培ってきた知恵や技を教えてもらうことが多くあり、また、家事等出来る事はお願いして一緒に行って頂く様にしています。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	何かあるごとに家族に相談し、一緒に解決するようにしています。職員からの提案もあれば、家族からの提案や情報提供もあります。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	施設の行事やユニットの外出などには家族参加を声かけ、半数程度の参加があります。また、面会の機会の少ない家族本人には電話でのコミュニケーションを促す等いろいろ工夫しています。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時折本人の知人や友人の面会があり歓迎しています。電話や手紙にて連絡を取り持つこともあります。人間関係の把握は家族から情報を得たり、訪問に家族が付き添うなどの協力を得ることもあります。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	利用者様同士のコミュニケーションを図ることが難しく職員が橋渡しを行う事により円滑な人間関係を図れる様に努めています。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設に移られた時等、面会に行く様に努めています。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを知ることは大事なことでと全職員意識して日々接しています。必要に応じてユニット会議で議題として取り上げ集中的に取り組むこともあります。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご家族から生活歴等の情報を提供してもらい、入居後はできる限り早く本人からの情報収集に努めています。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	常に本人の行動や状態を観察し、そこから得た情報を大切にしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人のニーズを中心に、本人・家族と相談しながら介護計画を作成しています。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にニーズの見直しをしています。入院などの状態の変化がある際には、その都度見直しを行っています。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化や気づきであっても、より良いケアにつながるかもしれないといった心構えで記録にあたっています。介護計画の見直しの際には、記録を見直し、不足している情報は特に重点的に記録するよう努めています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイの休日に設備（器具・ゲーム等）を利用いただいています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員、地域包括支援センターの管理者に運営推進会議に出席してもらったり、近隣の教育機関にボランティアをしてもらったり体育祭に招待してもらったりしている。近所の保育園からの定期的な慰問も受けている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービス・耳鼻咽喉科・歯科衛生士の往診を受けております。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センター管理者の出席をお願いし適切なアドバイスを受けています。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の了解を得ている医療機関での医療を受けられるようにしています。時には、本人の状態にあった医療機関の提案も行っております。医療機関を受けた際の情報は即時に本人・家族と共有するよう努めています。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医の協力を得ています。毎月1回程度の定期受診にて日々の状態や変化を細かく医師に伝え、助言を得たり、治療してもらったりしています。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1回看護師の訪問があり、24時間相談できるようになっています。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と家族との相談のもと、本人にとって一番いい方法を考えるよう努めています。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を取り入れ、決定しています。医療従事者の協力も得ています。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医と密に話し合い、対応が可能な事、困難な事を職員で話し合っています。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の状況観察及び家族からの情報提供により、本人と家族と話し合いをしています。落ち着くまでは家族の密な協力もお願いしています。また転居後においても情報提供し、連携を心がけています。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライドを傷つけない様配慮しながら、支援しています。また秘密保持についてはユニット会議で話し合っています。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望を大事にし、納得される様な支援を心がけています。	○	納得して頂ける様な声掛けやコミュニケーションを密に出来る様職員間で話し合いを定期的に行っています。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活のペースや気持ちを尊重し、都度臨機応変に対応しています。	○	日々の業務に追われ、過剰介護になっており、待つ介護・待てる介護に取り組んでいます。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の了解のもと、訪問理美容を利用しています。髪型にこだわりがある利用者は、好みを把握した訪問理美容師を担当にしています。服の購入時は、利用者と一緒に希望する店に付き添うこともあります。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者のそのとき食べたいものや、ある材料で何ができるか等、利用者に意見を求めながら決めています。調理から片付けまでできることは利用者と職員が一緒に行なっています。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	それぞれの嗜好品は本人からの預かり金から購入し、楽しめるようにしています。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い、排泄パターンの把握をし、必要な利用者にはさりげなく声をかけてトイレに誘導し、失禁を減らせるよう努めています。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者同士のトラブルを避けるため、基本的には入浴日を決めています。体調や気分など各利用者の状況に合わせて別の日に入浴するなど臨機応変な対応をしています。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとり好きなときに休息しています。また、昼夜逆転しがちな利用者には、昼間の活動を促し、臥床の時間を少なくする様努めています。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	共同生活の中で各自の力を発揮できるような役割りが自然と定着しています。月に1回以上の外出や、その他行事を考え実施しています。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりしてはいますが、希望する利用者はそれとは別に能力に応じた手持ち金を持つことができるようになっています。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブに誘ったり、散歩に行ったりしています。意欲の低下している利用者に対しては興味があることを探り、外へ出掛ける機会作りに努めています。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別的に買い物にいけるよう支援しています。また日頃の会話の中で希望を聞き、外出時に行ける様心がけています。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話が使用できます。希望や意欲のない利用者に対しては、本人の気持ちの把握に努め、必要ならば電話や手紙を促すこともあります。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族や知人の面会は歓迎しています。居室だけでなくゆっくり過ごせる場所を設けており、毎日のレクリエーションにも参加して頂くこともあり、お茶やお菓子を一緒に楽しんで頂く事もあります。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしなくてもよいような見守り、気配りを行い、拘束のないケアを行なっています。また、身体拘束に関するマニュアルを作成し職員の周知徹底に努めています。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間玄関は施錠するが、日中は自由に出入りできるようにしています。無断で外に出ようとする場合は、職員が気付けるような職員配置を考え、見守り重視をしています。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は必ず、リビングに一人以上の職員がいるようにしています。夜間は全体が見渡せ、且つ、見守り頻度の高い利用者の近くでプライバシーに配慮して過ごせるよう工夫しています。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品の管理方法を話し合い決めています。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各防止策はユニット会議などで話し合っています。また、事故が起こった際にはアクシデント報告書やヒヤリハット報告書を活用し、都度防止策の検討をして今後に生かしています。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを作成し緊急時に備えています。また、応急手当普及員の講習会、定期的に研修や講習会への参加を促しています。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行なっています。	○	地域住民の参加や協力を得られるような体制作りに努めていきたいと思います。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族への説明を行い、対応策を話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	アレルギーや持病・留意事項については全職員が把握しています。バイタルチェックは1日最低1回以上行なっています。日々の様子観察を十分に行い早期対応に努めています。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルを作成し、薬に関しての周知徹底に努めています。配薬に関してはチェック体制の強化に努めています。服薬に対する状況は都度医師に報告相談しています。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分チェックを行い水分の補給を促したり、繊維の多い食事作りを心がけたり、活動を増やしたりの工夫をしています。同時にそれぞれに合った下剤の使用を医師や看護師と相談しながら行なっています。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人の今までの生活習慣を尊重し、ほとんどが起床時と就寝前（夕食後）に自発的に行なっています。そうでない人は職員が声かけ・一部介助にて行なっています。また、週1回の訪問歯科衛生士の指導を取り入れています。	○	毎食後の口腔ケアが出来る様に取り組んでいます。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェックを行い、把握に努めています。また、検食簿に記入しており、偏りのない食事作りに努めています。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルがあります。インフルエンザの予防接種を行ったり、食中毒予防の注意点を定期的に文書や申し送りやユニット会議などにて確認し合う等、季節ごとに対処しています。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	清潔や衛生管理のポスターを貼って常に心掛けています。まな板・布巾は毎日漂泊し清潔に努めています。食材は大量に仕入れせず細めに発注、買い物をする様にしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はバリアフリーになっております。花壇を作り、利用者と一緒に花や野菜を作り、和める場所を提供しています。	○	毎年花壇を新設しています。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に季節を感じられる様な室内装飾を行い、観葉植物・生花等を設置しています。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分2か所にテーブルを配置し、ソファも自由に座れる様に追加しております。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具等の持ち込みをして頂き配置については、本人また家族と相談を行い常に安全で混乱しない様に工夫しています。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日は窓を開け喚起に努めています。温度調節は利用者の状況に合わせて行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーになっており、要所要所には手すりが設けられ、使いやすい様整理しています。またトイレは、車椅子が使用出来る様に広いスペースを取っています。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室を間違える入居者もおおり目線の高さに表札をつけています。トイレには分かりやすい様2種類の表示をしています。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候の良い時期は駐車場にテントを張り、食事やおやつ等を楽しめる様にしています。又花壇の新設に伴い、利用者様が外で過ごす時間を多く持てるようにしています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2／3くらいと ③家族の1／3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・毎日、おやつ前にその日の日勤者は他の作業をやめ、入居者様と一緒に集団レクリエーションを30分程行っています。また、音楽療法、園芸療法等に力を入れ利用者様との 触れ合いを密にしています。

・行事等を行う場合は、ご家族に案内状や電話等で呼びかけ、出来るだけの参加をお願いしています。

・市や県の研修等には職員に呼びかけ、時間調整をして参加し易い状況を作っています。

・共有空間は季節に応じて職員が工夫を凝らし装飾に力を入れる様になって来ました。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業名の『おあしす』を、盛り込んだ独自の理念を持っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット会議を月に1回設け、その際に認識・再確認をしている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	施設の行事・ユニット内での外出の際などは、参加の声掛けを行い、内容をわかり易く説明し、行事終了後『いやし新聞』を毎月発行して報告を行っている。		定期的な家族会・新聞などで利用者の生活の把握をもらう。定期的に連絡をとり近況報告や面会を促せるよう関係作りに努めている。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物の際には、挨拶など積極的に行い少しでも多くの方との接触を持てるようにしている。		災害時等、協力依頼が出来る関係作りを行っている。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は、体調や身体的な理由で出向いての地域活動への参加は難しいが、慰問して頂くことで交流をしている。		更なる交流の場を模索していく。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員の地域活動は行えてない。		地域活動への参加する為の話し合いの場を作る事から始める。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ハード面での改善不可能な部分をいかにクリアできるか常に検討している。更に評価についてはユニットに掲示すると共に、何故要改善なのか職員自身にも考えてもらうようにしている。		管理者・サブリーダー・一部の職員においては理解や協力があるが、全職員での取り組みにはいたっていないので、更に話し合いの場を設けていく。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、現状や今後の計画、サービスの内容や取り組み状況を報告している。 出た意見を取り入れ、サービスの向上に活かしている		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所には定期的に行くようにしており、担当者には入居者の近況報告や、空室状況など報告している。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が、ユニット会議にて職員に報告・情報を共有し、機会があるときには家族へ説明している。		施設主催で行う発表会・学習会への参加を促すなど聴いてもらう場を設ける。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員が、ユニット会議にて職員に報告・情報を共有している。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は読み合わせを行い、不明な点はその都度聞くようにしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営規定に盛り込んでいる。管理者・職員に 意見や要望として上がってきた内容を、その 都度話し合い改善できるように努めている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	面会が多い家族には面会時に、少ない方には 毎月の新聞や電話で伝えており、入居者には 直接担当職員が伝えている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を定期的に行い、意見を聴くようにし ている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	ユニット会議を月に1回設け、その際に意見 交換を行っている。緊急を要する場合は、 その都度話し合っている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	人材確保が困難な場合は、派遣会社を利用し ており、職員の急病時には休みが続いている 職員に出勤依頼をするなど協力体制は整っ ている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来る限り配慮しているが、やむを得ず異動 する場合は、入居者のダメージ軽減の為、本 人が入居者にじっくり話をして引き継ぎ期 間は十分に設けている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集及び採用においては、年齢・性別問わずに行っており、面接時には本人の能力等を十分に考慮した上で決定している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する研修があれば、随時参加している。それ以外に関しては各ユニットの管理者が適切に指導している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成の為、研修等に参加できる体制を年度毎に事前に計画し順次受けている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの交流会や、研修会で知り合った方と継続性を持って交流できるように努めている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各自が常にストレスを溜めない様に努めている。また、管理者・サブリーダーは常に職員の表情や行動に気を配り、相談があった時は時間をとって話を聴き解決に努めている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	時には厳しくもするが、努力は認め誉めたり励ましたりするように努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	インテークのみでは把握できない事が多い為、本人と良く話し本人を理解する事から始めており、不安軽減に努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の抱える問題は様々で、願いや思いを理解できるように努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他サービス利用の情報収集を常に行い、本人・家族が求める・必要とするサービスの見極めに努めている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人には時間を掛け家族から話をして頂き、納得した上で入居手続きを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が出来る事は自分でして頂き、出来ない所を補い・手伝う事を職員は理解しており、それぞれの得意分野を活かし活躍の場を設けるように努めている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お互いが何でも話し合える関係作りに努めており入居者にとってより良い支援が行えるようにしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	施設での生活状況については知らせると共に、時間があれば外出・外食等で少しでも共に過せる時間を設けて頂いている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係支援は行っている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	利用者同士の関係や相性は職員が把握し、時には席替え等行っている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後に家族からの相談等は少ないが、利用者の転居先の近くにいる時は、状況に応じて可能な場合、面会に行くようにしている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント作成時に、本人と時間をかけて話し合い希望や思いの把握に努めている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント作成時に、本人と時間をかけて話し合い以前の生活背景の把握に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	施設での生活状況を踏まえ、残存能力の把握・維持に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の希望を聞き出し、それを可能にする為に会議にてサービス内容を検討し、必要ならば家族への協力依頼も行う。また、家族の希望があれば、内容についても検討する。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常に入居者の状況把握に努め、状態が変化した際は話し合いの上で新たな計画を立て実施している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気付きや、更なる工夫については別ノートを使用している。計画の見直しに関しては、会議を開き変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、利用者の気持ちの不安を取り除くよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	バザーや、近隣の高校、小学校、保育園との交流を通し近隣との交流を徐々に深めていっている。また、警察、消防との連携を図っている。	○	まだまだ不十分と思われるため、必要時に協力を依頼できるよう関係を築いていく

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	民間訪問理美容や、オムツサービスを利用している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	解決困難な事例についての相談。2ヶ月に一度の運営推進会議での交流等を行っている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望される際には、かかりつけの病院への通院が行えるように配慮している。また、診断結果などは速やかに、家族へ報告する。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症への理解が深い医師と連携を図り、相談にのって貰っている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制を活かし、健康管理を行っている。また、夜間も対応できるため、急を要する際の受け入れや、相談等も行っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	本人にも、必ず入院の同意を得、入院中は家族や入院先の医師、看護師との情報交換を行い、利用者が安心して療養できるように努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向は早いうちに確認し、本人に合ったケアを行っている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	可能な限り施設でケアするが、医療的処置が必要な際は協力を依頼できるように体制を整えている。また、常に状態観察をし、今後の変化に備えている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族からの説明や施設見学、体験入居等を通して本人に納得して頂いた上で入居して頂く。こちらから他へ住み替える際も同様であり、住み替え先との情報交換も、密に行う。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つけないような声かけを心掛けている。スタッフ会議でも自分の言葉かけを振り返る時間を設ける。個人情報保持については、徹底している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	スタッフと話しやすい雰囲気作りや、日頃よりコミュニケーションを図り、信頼関係を気づく。また、解りやすいようにゆっくり説明を行い、選択肢を与え本人に決定して頂く。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	完全には行えていないが、できる限り希望を叶え、無理強いせず、一人ひとりの時間を大切にしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は、ほとんど訪問理美容を利用しているがその際は、本人の望む髪型にするように美容師に希望を伝えている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、入居者の意見も取り入れながら調理を行っている。調理も、その人に合わせた作業を出来る限り行っていた。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	保管は職員にて行っているが、特に制限しておらず、希望時にはそれぞれが言って来るため、その都度提供している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の状態に合わせおこなっている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	今日入りたいと訴えがあったり、失禁等があった際には、その都度対応する。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の生活習慣を把握し、本人が過ごしやすく安心できる環境を作る事で、安眠にも繋がる。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとり、やりたい事が違う為それぞれに合わせ楽しんで頂く。時々、ドライブや外食等でリフレッシュを図っている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	なかなか金銭管理すべてを任せることは難しいが、少額を手持ち管理をお願いしたり、店での支払いの際には本人に支払って頂いたり、買い物希望があればその都度対応している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や、ドライブ等出来る限り希望に沿うように努めている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族へお願いし、機会を作って頂く。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと訴えの合った際はすぐに対応し、家族から電話のあった際には、代わって頂くように配慮する。また、年賀状や暑中見舞い等を出している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	馴染みの方たちが訪問された際は、挨拶を明るく行い、スタッフもお話させて頂く。希望があれば、食事と一緒に摂って頂いたり宿泊も出来るような体制を整えている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が、身体拘束ゼロを理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。また、マニュアルも常に見れるところにある。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、リビングにて過ごす利用者が多い為、必ずリビングにはスタッフが居るようにしている。リビングを離れる際は必ず声を掛け合う。居室に居る方も必ず巡回行い、安全に配慮する。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態を考慮したうえで、危険物の管理を行っている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会や、研修に積極的に参加し、スタッフそれぞれが知識を深め、それぞれに応じたケアを行っている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	社員は応急手当普及員、上級救命講座の受講を行っている。しかし、定期的には行っていない。	○	勉強した知識を、再確認する機会を定期的に設け、技術の定着、向上に努める。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練や、各ユニットで非常食の常備を行っているが、地域への働きかけがまだまだである。		ホームを理解してもらえるように努めていく。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人ひとりの状態を密に家族へ報告し、これから起こり得るリスクについて話し合う。また、急な変化の際は協力をお願いする。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定や、日中の状態把握に努め、少しの変化も見逃さないように気を付けている。必要な際は、速やかに受診する。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の、服薬内容を解りやすく整理し、用法、容量の確認をそれぞれが行っている。服薬後の状態変化にも気を配っている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックを毎日行い、便秘予防のためにも水分摂取をすすめ、食物繊維がとれるよう献立を工夫する。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者に説明し、出来るところは自身で行い、不十分なところは介助し、清潔を保つ。また、歯科医師との連携もとっている		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を毎食記録し、一人ひとりに応じて、刻みや減塩等、対応している。また、声かけをし、摂取を促す。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成している。また、発生状況、流行に応じて別文書で注意を促す。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材には日付を記入し、早めに使用する。布巾や調理器具はハイターにつけたり、アルコール消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に植木を置いたり、駐車場周辺のフェンスに花を飾っている。時々玄関の自動販売機にジュースを買いに来るようになった。ユニットの入り口も、季節感を出した飾り付けをしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の出るような飾り付けをしている。トイレ、浴室は解りやすく大きな字で表示する。また、ベランダには、季節に合わせた花や、野菜を植えている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が過ごしやすと思える場所で過ごしている。一人になりたい際には居室にてくつろいでいる。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、本人が使い慣れたタンス、食器、仏壇等を持ち込み過ごしやすい環境を出るだけ整えるように配慮する。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的な、換気や室温調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能を考慮し、検討したうえで危険因子を取り除く。本人の残存機能を活かせるような配置を工夫する。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれの、能力を理解し混乱や、失敗する事がないよう、自尊心を傷つけないよう配慮しながら自立できるよう援助を行う。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにプランターを置き、水やりや花植えを行って頂いている。1階自販機にてジュースを買ったり、駐車場や、外周の散歩可能な限りおこなっている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2／3くらいと ③家族の1／3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりにのニーズに合わせ、その人らしく穏やかに過ごせるように支援しています。